

西南雄藩の改革 日本政治史

二〇〇二年四月二十六日
川島 高峰

幕藩の同心円的構造と比較のポイント

財政難とお家騒動 対立軸 後嗣との関係に對幕府關係が加わる

改革の名分 幕府内 朝廷・諸大名への説明が必要、幕閣内の意思統一が必要

雄藩内 幕府からの統制は弱い。外部力学が弱いため内部抗争は熾烈化

・三つの志士、政治の志士、経済の志士、情報の志士

・長州＝松陰の思想と行動

・四つの窓 薩摩、琉球、長州、下関馬関、土佐、長崎、備前、長崎

幕府の管理市場 長崎＝大阪＝全国市場

薩長の対抗市場 琉球＝馬関＝西廻航路、薩長交易は西日本市場圏の中枢に

長州藩

一八三〇―一三八

天保の危機 連年二揆 最大事一〇万人規模の反乱

一八三九

負債総額九万三千貫、藩経常収支の二四倍

村田清風抜擢

規制緩和と統制強化 緩和；藩費縮小→連上全等の徴収、民営化による税収増

藩による金融業；西回り航路の船舶証券のような金融を開始

一八四〇年代後半には負債の過半を整理

一八四四

清風失脚、三七カ年払いの負債整理に特権商人が反発、坪井九右衛門にとって代わる。

藩内政治抗争の契機 村田派（正論派）―尊攘派の起源へ

坪井派俗論派→保守派

藩内政策に大差はなかったがエリートの周流を加速、下士階層の台頭を可能とした

薩摩藩

軍陣組織の藩体制を維持 農村の強圧支配により一揆がない。生産効率低い

一八二七

藩債五〇〇万両 藩経常収支一五万両前後 調所笑左衛門、側用人となる。

一八三五

藩債二五〇年償還を強行 商人の士分取立による「相殺」

奄美貿易 琉球密貿易小規模に認められた公許枠を隠れ蓑のとし大規模取引

一八四八

お由良騒動。家騒動と密貿易密告、笑左衛門自害。

島津重豪^{しげひで}一七五五襲封建一七八七隠居 一八三三死去

← 一二代將軍家斉の舅。権勢を振るい浪費、洋癖と文明開化策

斉興：世子・斉彬、側近に西郷と大久保↓阿部正弘老中と電絡

；側室・久光

一八四九

「高崎崩れ」斉興激怒、斉彬擁立派四〇名以上を処刑

一八五一

幕府 斉興隠居の内論。斉彬襲封

一八五八

斉彬死去、遺命により久光の嫡子忠義が襲封。久光、国父として藩の実験掌握。

忠義は斉彬の藩政改革、欧化政策の意志を継ぐ。かくして幕末に久光父子の登場

幕末維新回天の時期区分

① 一八五三、開国問題 公武合体・雄藩連合

② 一八五八、勅許問題 朝廷の政治勢力化

③ 一八六一、朝幕周旋と薩長の対立

④ 一八六四 薩長協力と尊王倒幕

⑤ 一八六六 武力倒幕と英仏介入